

岡山県感染症週報 2013 年 第 6 週 (2 月 4 日～2 月 10 日)

◎岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。

◎岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 6 週 (2/4～2/10) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 4 週 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (30 代 男)

第 5 週 5 類感染症 風しん 1 名 (小学生 男)

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 2,174 名 (定点あたり 31.79 → 25.88 人) の報告があり、前週より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。

○感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 7.81 → 8.24 人)。

【第 7 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 41 施設でありました。(2 月 11 日～2 月 14 日まで)

○水痘(みずぼうそう)による学年閉鎖が、総社市の幼稚園 1 園でありました。(2 月 12 日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 2,174 名 (定点あたり 25.88 人) の報告があり、前週 (31.79 人) より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し (2 月 7 日発令)、ひきつづき注意喚起を図っています。多くの地域で患者は減少しましたが、倉敷市 (40.31 人)、真庭地域 (32.00 人)、備中地域 (30.33 人) で発生レベル 3 が継続し、特に倉敷市では今週も警報発令基準を大きく上まわりました。また、その他の地域でもレベル 2 が継続しており、ひきつづき感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
全国の第 5 週 (1/28～2/3) 集計によると、定点あたり 35.82 人であり、前週 (36.44 人) よりも減少しました。定点あたり報告数の全国値は減少しましたが、30 都道府県で前週の報告値よりも増加がみられました。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 7.81 → 8.24 人)。ひきつづき流行シーズン中ですので感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 6 週は報告がありませんでしたが、2013 年は第 6 週までに 2 名の報告がありました。冬でも患者発生の可能性がありますので食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
4. **風しん**は、小学生 1 名が報告され (第 5 週追加)、2013 年は第 6 週までに 2 名が報告されています。全国では、昨年 1 年間に 2,353 名の報告があり、大きな流行になりました。今年も関東地方・近畿地方を中心に患者増加がつづいており、2013 年第 1～5 週までの累計報告数は 339 名と、大流行した昨年の同時期の報告数を大きく上まわっています。特に東京都では 157 名と全国の患者の約半数を占めています。風しんは学童～思春期に多いといわれていますが、現在の全国における患者の中心は 20～40 代の男性で、患者全体の約 72% を占めており、成人を中心とした流行となっています。

◎**インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症の流行シーズンです。**

外出後や調理前・食事の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。また、感染した時は、咳エチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移：



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★★: 少し ★★★★★: やや多い ★★★★★★: 多い ★★★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 6 週 (2 月 4 日 ~ 2 月 10 日)

岡山県は「インフルエンザ警報」発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 2,174 名（定点あたり 31.79 → 25.88 人）の報告があり、前週より減少しました。

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。

○倉敷市、備中地域、真庭地域で発生レベル 3 が継続しています。

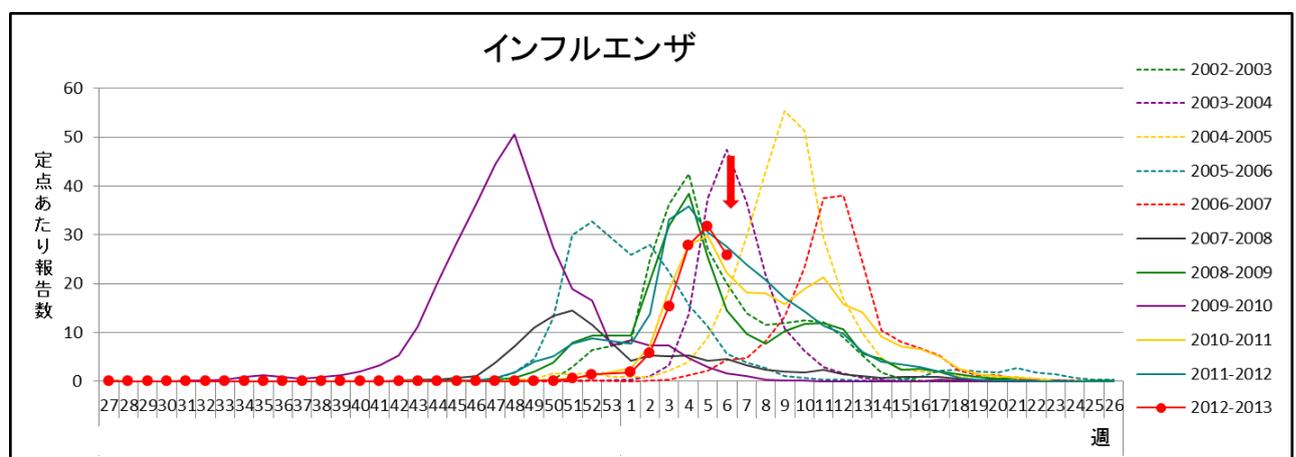
○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 82 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 5 名の報告がありました。

【第 7 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 41 施設でありました。（2 月 11 日～2 月 14 日まで）

▽岡山市 13 ▽倉敷市 9 ▽備前地域 4 ▽備中地域 9 ▽備北地域 0 ▽真庭地域 0 ▽美作地域 6



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 2,174 名（定点あたり 31.79 → 25.88 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。

ほとんどの地域で患者の減少がみられるものの、倉敷市（50.06 → 40.31 人）、真庭地域（37.67 → 32.00 人）、備中地域（34.83 → 30.33 人）では大きな流行が継続していると思われる発生レベル 3^{*}が続き、特に倉敷市では依然として警報レベル基準の 30.00 人を大きく上まわっています。また、岡山市、備前地域、備北地域、美作地域では流行が継続していると思われるレベル 2 がつづいています。

第 6 週の学校等の臨時休業は 82 施設から報告がありました。前週より減少しているものの、ひきつづき幼稚園児・小学生・中学生を中心とした集団の中での感染に注意してください。

インフルエンザは現在流行期に入っています。感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。インフルエンザは予防接種を受けた人でもかかることがあり、また一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再びかかることがありますので注意が必要です。

※発生レベル 3 の開始基準を一度超えると、終息基準値（10.00 人）より下がらないと、レベル 3 は解除されません。

◆ インフルエンザは流行期に入っています。さらなる感染予防に努めて下さい。

【インフルエンザにかかったら】

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【かかったかな？という時は】

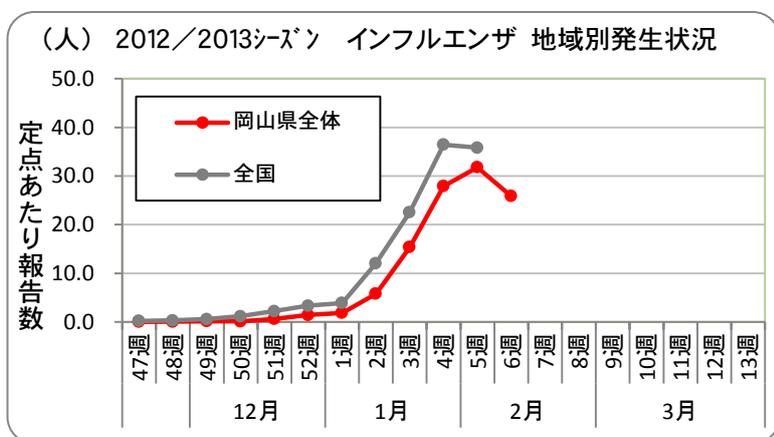
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ昼間に受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

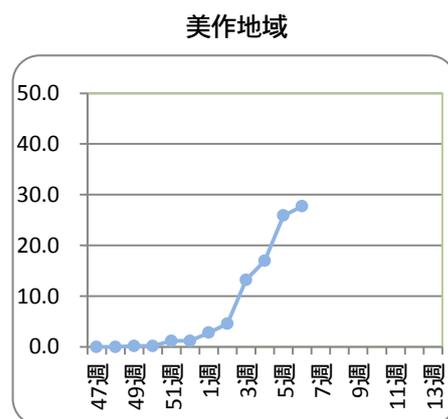
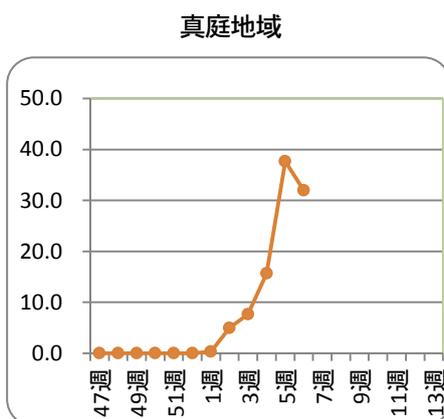
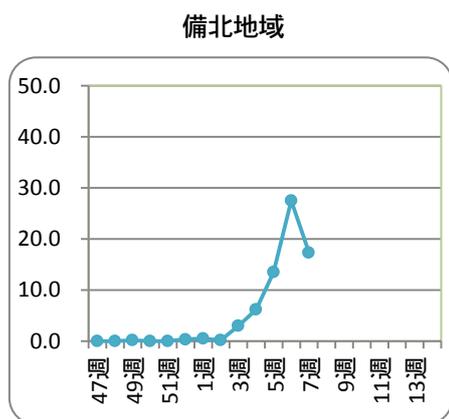
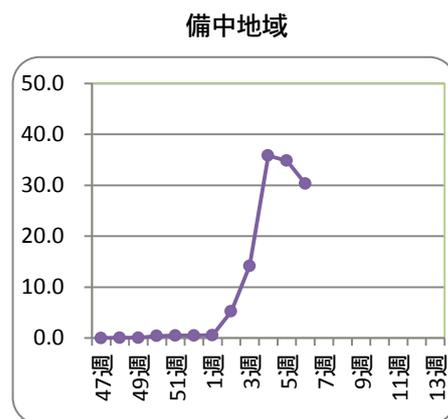
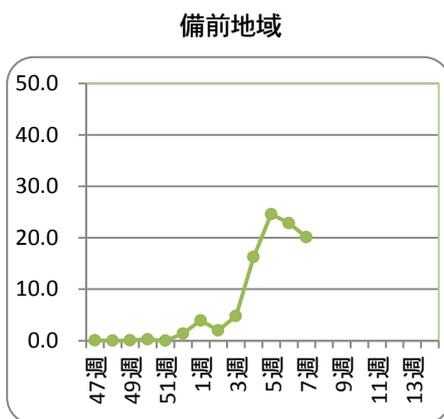
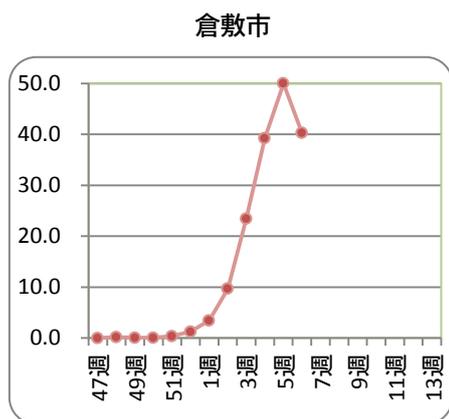
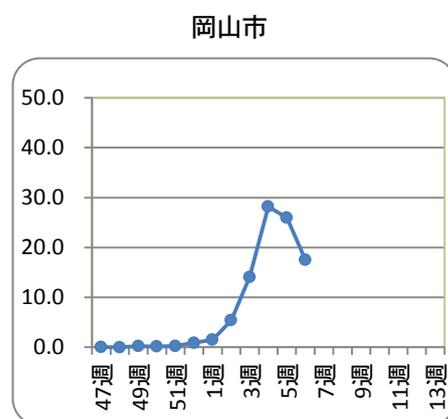
第6週(2/4~2/10) 前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2,174	↓	備中	患者数	364	↓
	定点あたり	25.88			定点あたり	30.33	
岡山市	患者数	386	↓	備北	患者数	104	↓
	定点あたり	17.55			定点あたり	17.33	
倉敷市	患者数	645	↓	真庭	患者数	96	↓
	定点あたり	40.31			定点あたり	32.00	
備前	患者数	302	↓	美作	患者数	277	→
	定点あたり	20.13			定点あたり	27.70	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

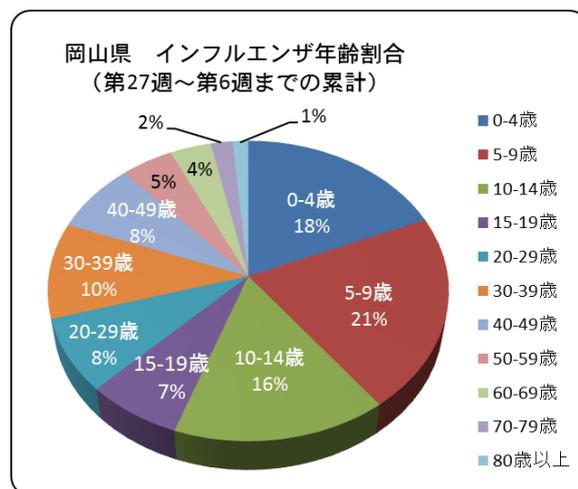
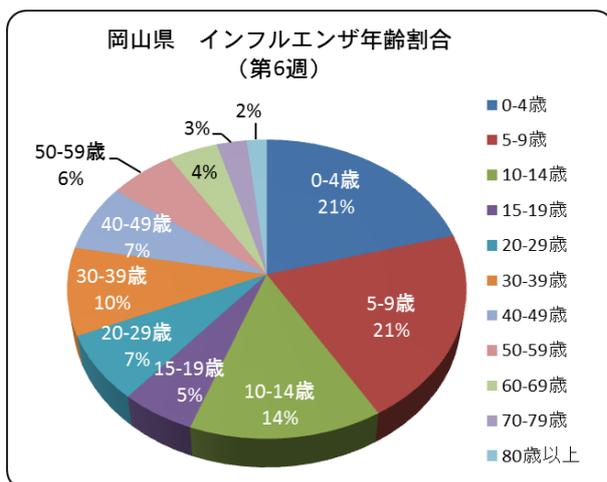
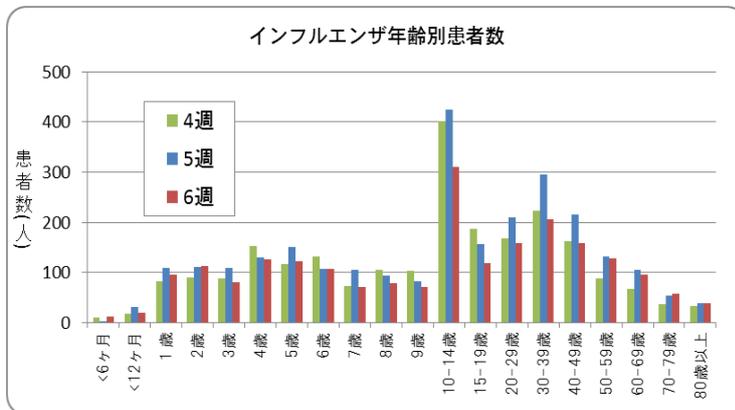


全国集計第5週(1/28~2/3)の定点あたり患者数は35.82人となり、前週(36.44人)よりも減少しました。定点あたり報告数の全国値は減少しましたが、30都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

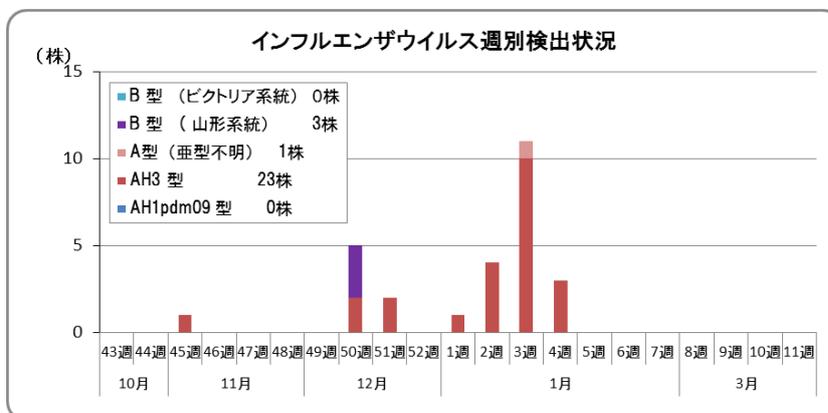


2. 年齢別発生状況 第6週 (2/4~2/10)

第6週の患者の年齢割合は0-4歳と5-9歳が21%、10-14歳が14%でした。15歳未満の幼児・幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の56%を占めており、集団生活の中での感染に注意してください。



3. インフルエンザウイルス検出状況 第6週 (2/4~2/10)



第6週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、新見市で発生した集団感染患者1名からインフルエンザウイルス AH3型が検出されました。これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が23株、A型（亜型不明）が1株、B型が3株です。また、B型3株を詳しく解析した結果、3株ともB型山形系統であることが確認されました。

検出されたウイルスの85%はAH3型ですが、簡易検査ではB型も検出されています。一度インフルエンザにかかっても、型の違うインフルエンザに再びかかることがありますので注意してください。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く89%、B型が8%、AH1pdm09型が3%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター\)](#)

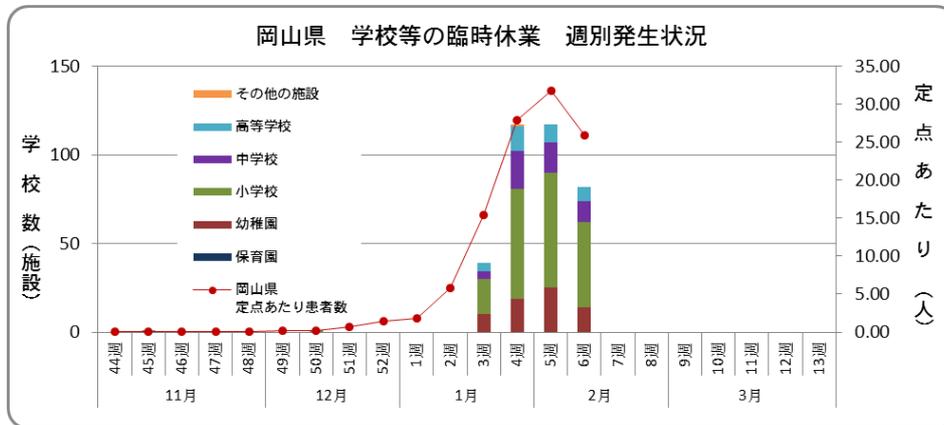
ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス AH3型	2013年第4週	2013年1月21日	新見市	小学生	女	集団感染事例

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第6週 (2/4~2/10)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 82 施設でありました。

◆第6週 臨時休業施設数

▽岡山市 22 ▽倉敷市 16 ▽津山市 7 ▽玉野市 6 ▽総社市 5 ▽備前市 4 ▽新見市 4 ▽真庭市 3
▽美作市 3 ▽鏡野町 3 ▽笠岡市 2 ▽井原市 2 ▽矢掛町 2 ▽赤磐市 1 ▽高梁市 1 ▽勝央町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第6週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1048	5135	779	3787	82	357	3	12	29	112	50	233	H 24. 11. 6
岡山市	278	1829	189	1328	22	118	0	1	2	16	20	101	H24. 11. 6
倉敷市	226	1302	184	927	16	73	0	1	5	11	11	61	H25. 1. 15
備前地域	117	608	98	465	11	51	0	3	7	25	4	23	H25. 1. 15
備中地域	160	680	118	549	11	56	1	4	3	26	7	26	H24. 12. 12
備北地域	50	185	37	144	5	18	0	1	3	13	2	4	H25. 1. 21
真庭地域	24	99	21	68	3	8	1	1	0	5	2	2	H25. 1. 21
美作地域	193	432	132	306	14	33	1	1	9	16	4	16	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第6週：82施設

累計：357施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	14	68	48	196	12	54	8	38	0	1

◆ 学校等の臨時休業が増加しています。

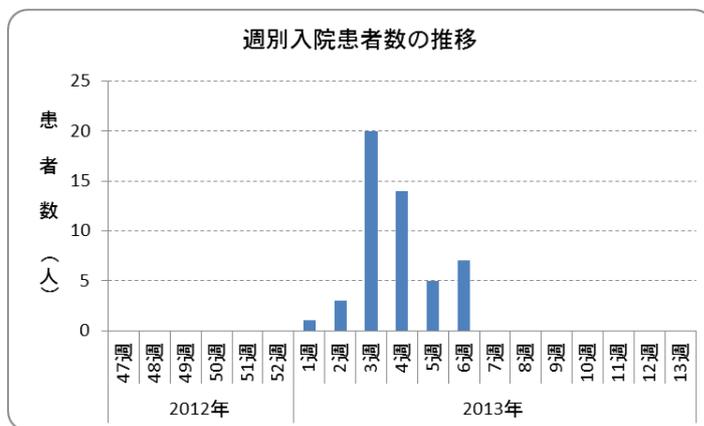
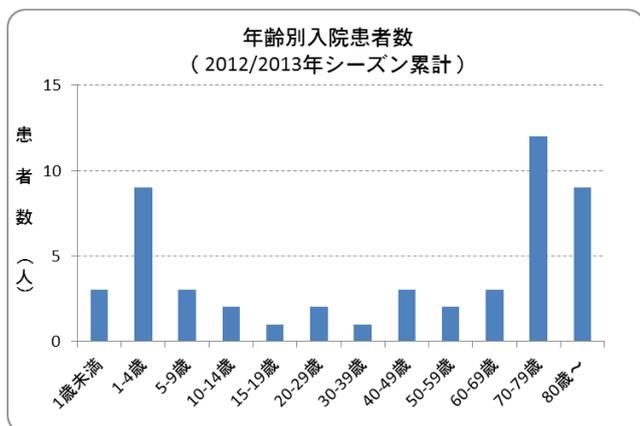
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあっては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第6週(2/4~2/10) (県内基幹定点5医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者は7名(幼児3名、10代1名、60代1名、80代2名)の報告がありました。10歳未満の幼児、70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第6週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	1		1						1		2	7
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)		1											1
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず	2			1						1		2	6

*重複あり

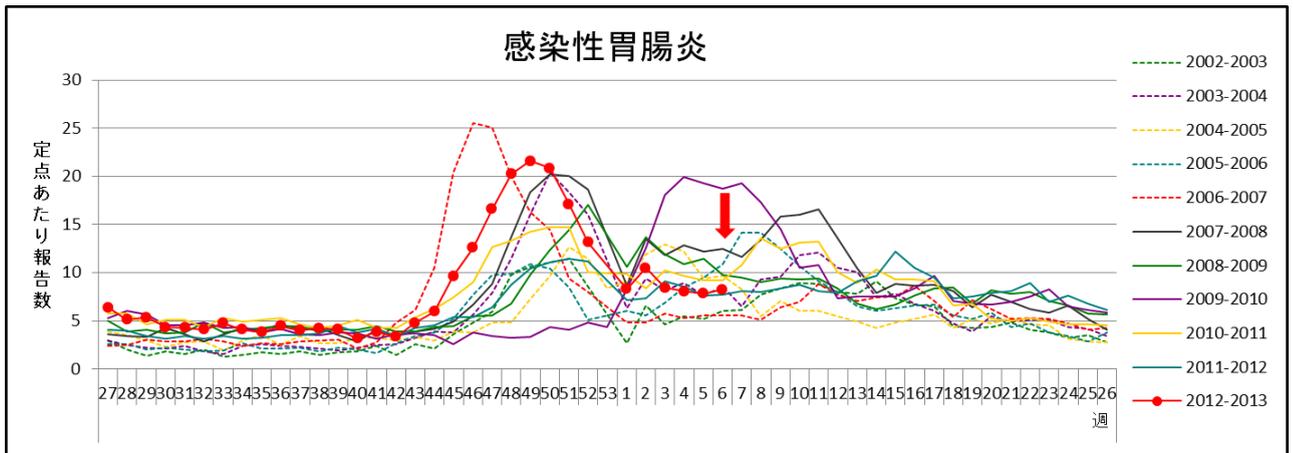
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	9	3	2	1	2	1	3	2	3	12	9	50
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用										1			1
頭部CT検査(予定含)		2	1	1	1	1					2		8
頭部MRI検査(予定含)		2	1		1								4
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず	3	6	1	1		1	1	3	2	2	10	9	39

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 6 週 (2 月 4 日 ~ 2 月 10 日)

- 岡山県内の患者報告数は 445 名 (定点あたり 8.24 人) であり、前週とほぼ同数でした。(54 定点医療機関報告)
- 感染性胃腸炎による臨時休業が、倉敷市の幼稚園 1 園、小学校 1 校でありました。

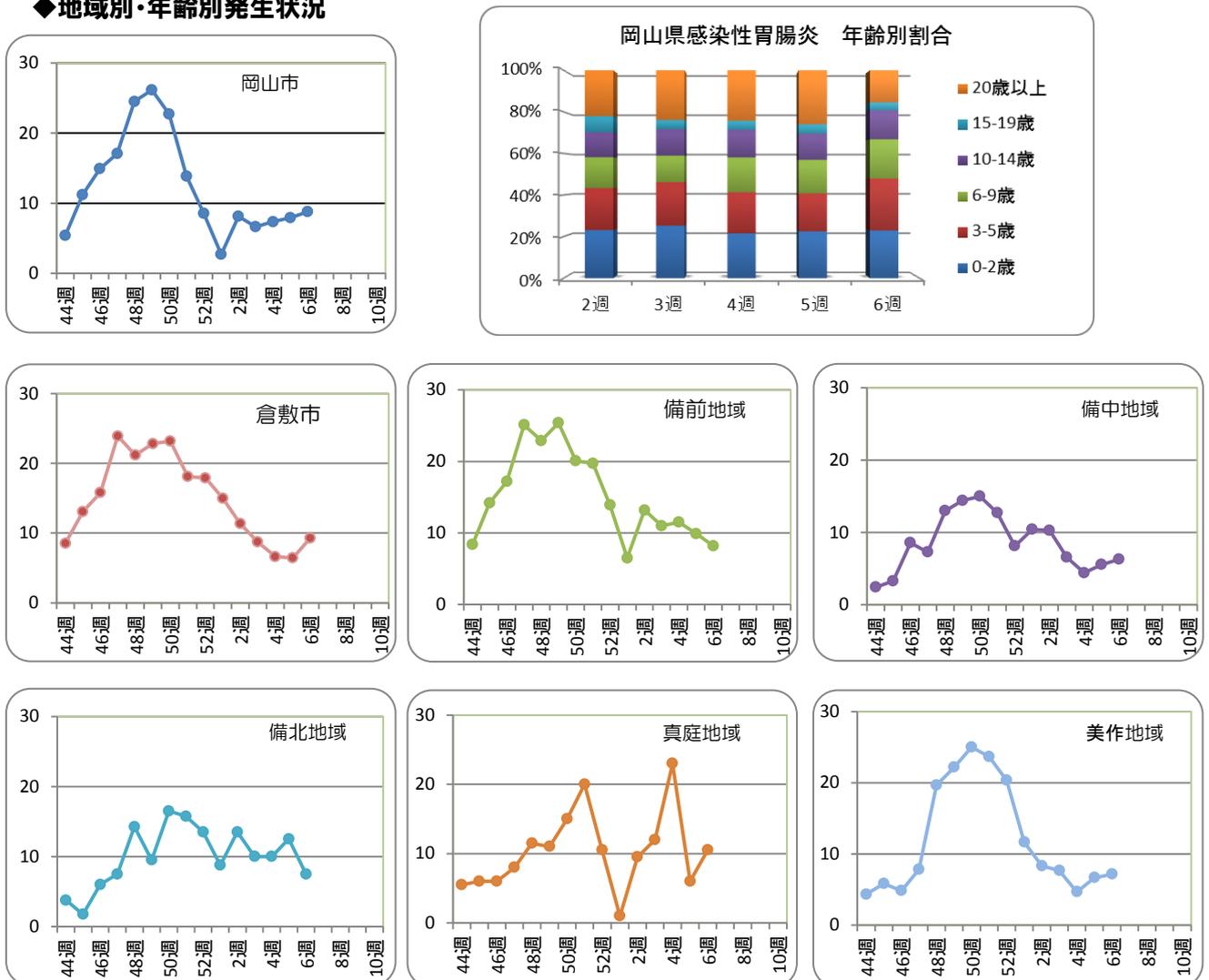


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数で (定点あたり 7.81 → 8.24 人)、第 3 週以降ほぼ横ばいで推移しています。地域別では真庭地域 (10.50 人)、倉敷市 (9.27 人) で患者発生が多くみられます。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 48% を占めており、これまでより増加しています。大きな流行は過ぎたものの依然として流行シーズンはつづいており、学校等の臨時休業も報告されています。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。

また、これから春にかけて、0~2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎も増加してきます。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので注意が必要です。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 6週 (2013/02/04～2013/02/10)

2013年2月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2174	25.88	386	17.55	645	40.31	302	20.13	364	30.33	104	17.33	96	32.00	277	27.70
RSウイルス感染症	19	0.35	10	0.71	2	0.18	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
咽頭結膜熱	9	0.17	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	0.91	13	0.93	10	0.91	9	0.90	4	0.57	1	0.25	-	-	12	2.00
感染性胃腸炎	445	8.24	123	8.79	102	9.27	82	8.20	44	6.29	30	7.50	21	10.50	43	7.17
水痘	52	0.96	19	1.36	13	1.18	6	0.60	11	1.57	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	7	0.50	3	0.27	6	0.60	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	0.33	-	-	2	0.18	14	1.40	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 6週 (2013/02/04~2013/02/10)

2013年2月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2174	25.88	386	17.55	645	40.31	302	20.13	364	30.33	104	17.33	96	32.00	277	27.70
咽頭結膜熱	9	0.17	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	0.91	13	0.93	10	0.91	9	0.90	4	0.57	1	0.25	-	-	12	2.00
感染性胃腸炎	445	8.24	123	8.79	102	9.27	82	8.20	44	6.29	30	7.50	21	10.50	43	7.17
水痘	52	0.96	19	1.36	13	1.18	6	0.60	11	1.57	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	0.33	-	-	2	0.18	14	1.40	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第6週 2013/02/04~2013/02/10)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	2174	12	21	96	113	81	126	122	107	72	78	72	311	119	158	206	158	129	96	58	39

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	19	5	3	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	9	-	-	4	1	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	-	-	1	3	2	6	4	8	6	2	3	9	-	5
感染性胃腸炎	445	3	22	47	30	38	29	44	28	26	16	14	62	17	69
水痘	52	-	6	9	13	4	6	7	3	2	1	1	-	-	-
手足口病	4	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	19	1	7	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	-	-	2	-	5	-	1	3	-	1	3	3	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	2	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	-	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

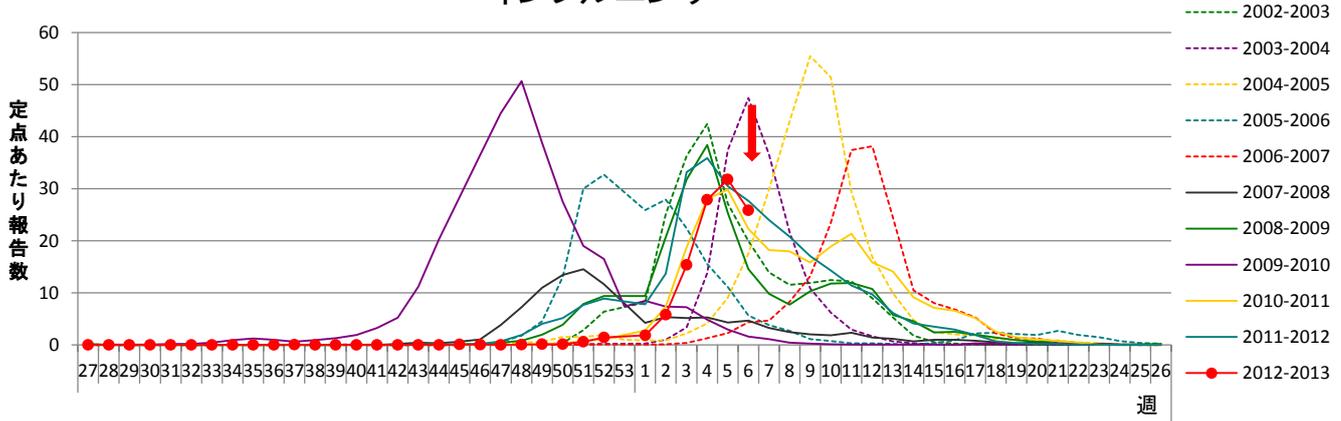
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

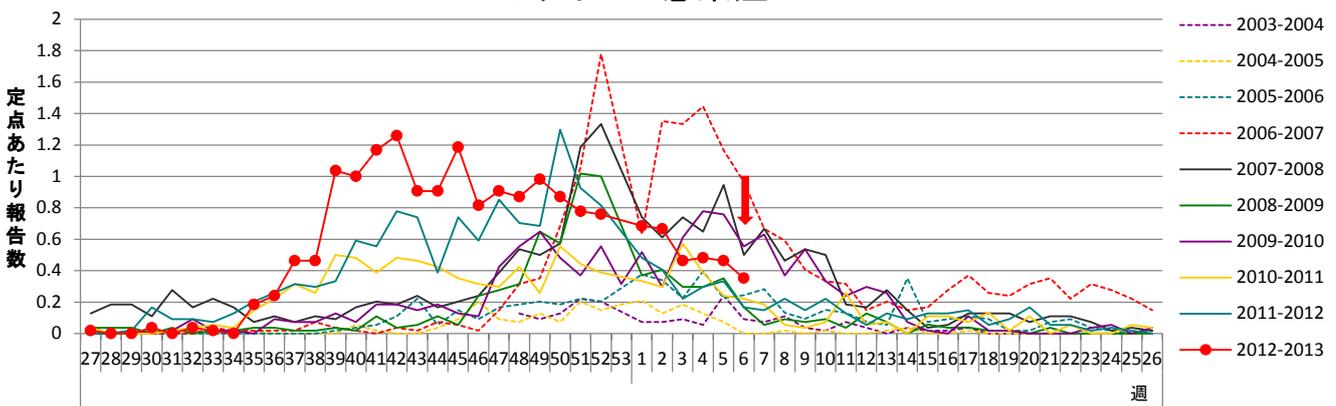
2013年 6週

分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	16	477	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	3	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	1	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	2	7	破傷風	-	-	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	2	6
	麻しん	-	-	6		-	-	-		-	-	-

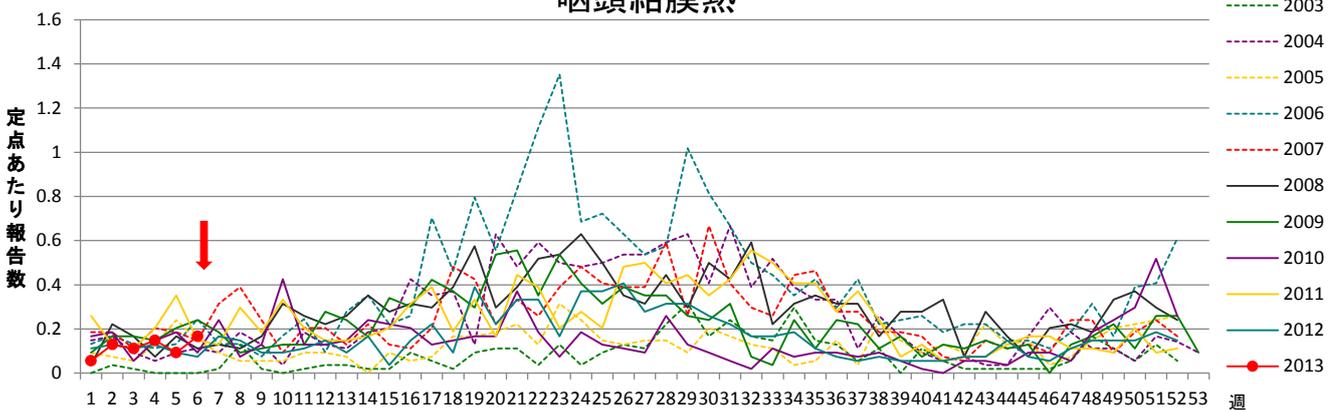
インフルエンザ



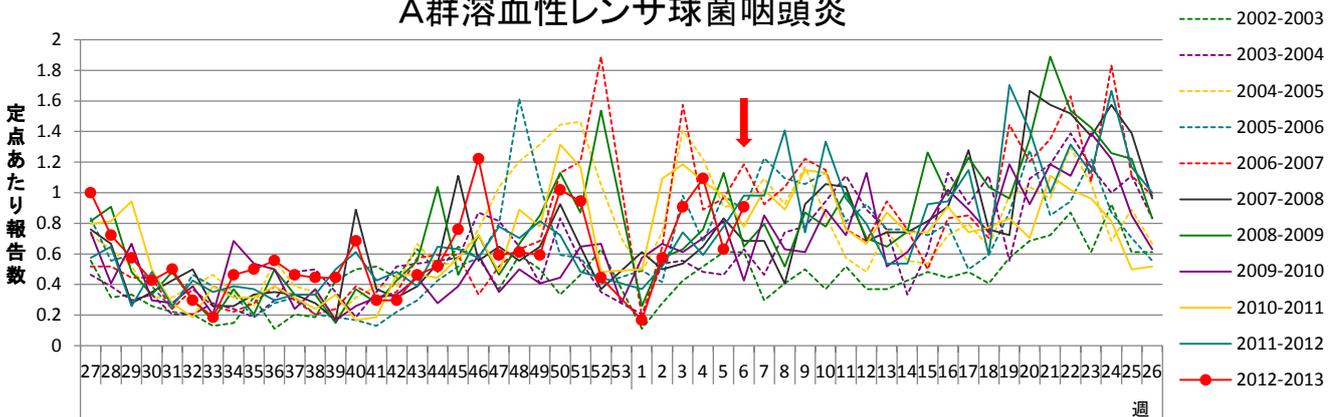
RSウイルス感染症



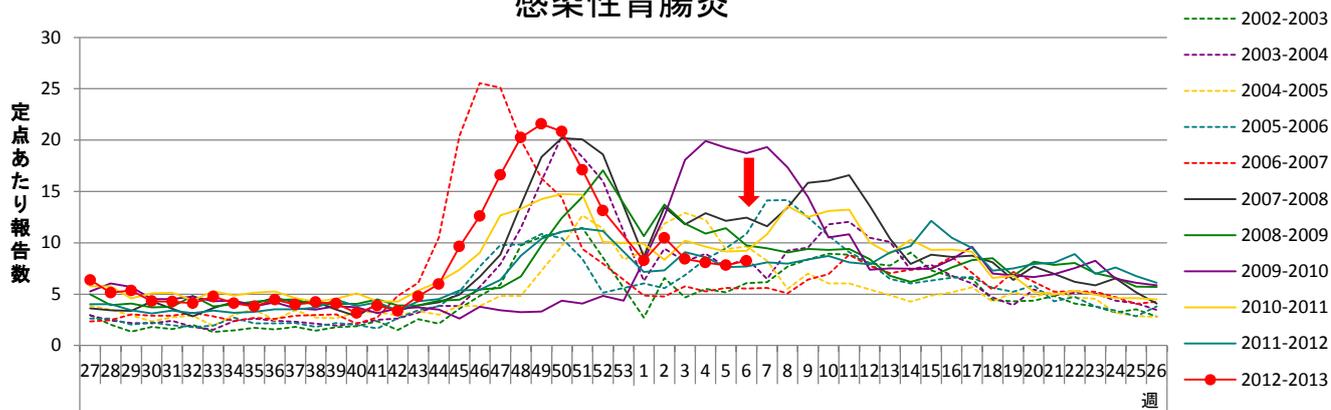
咽頭結膜熱



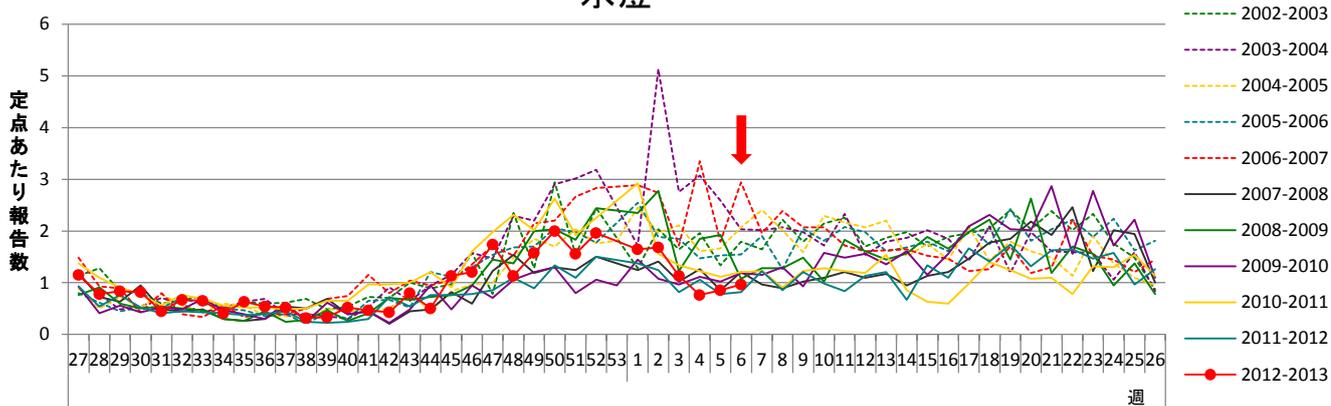
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



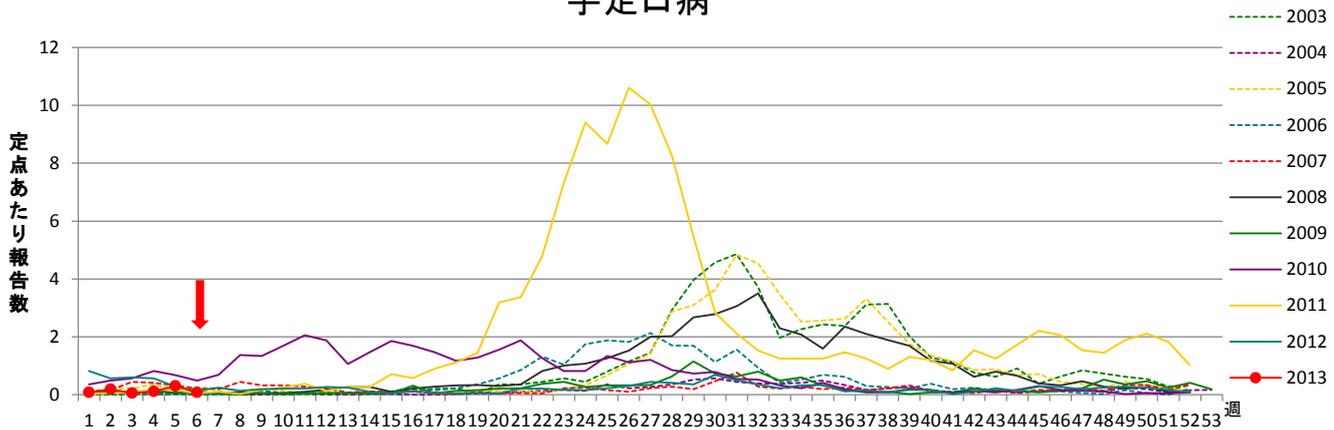
感染性胃腸炎



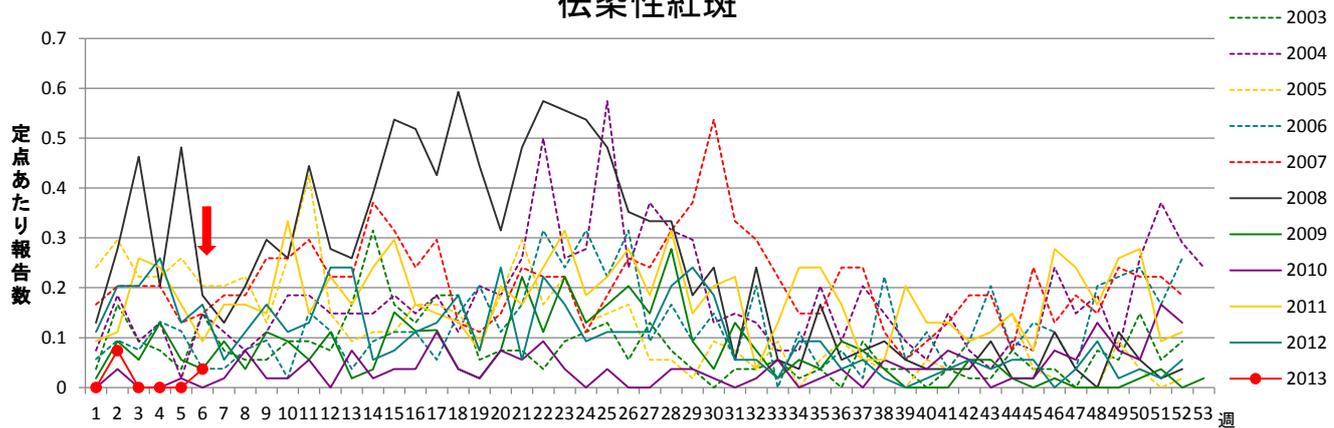
水痘



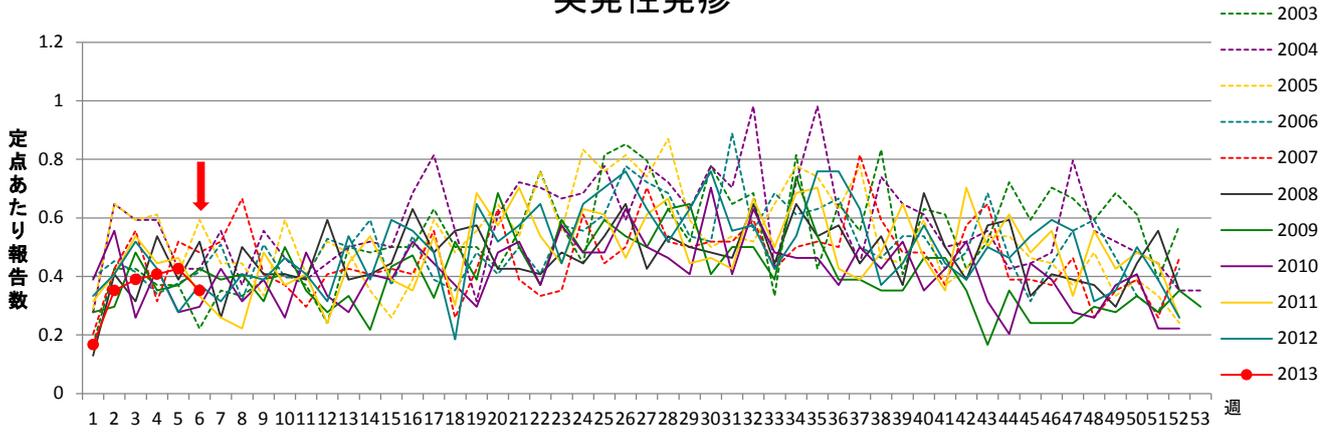
手足口病



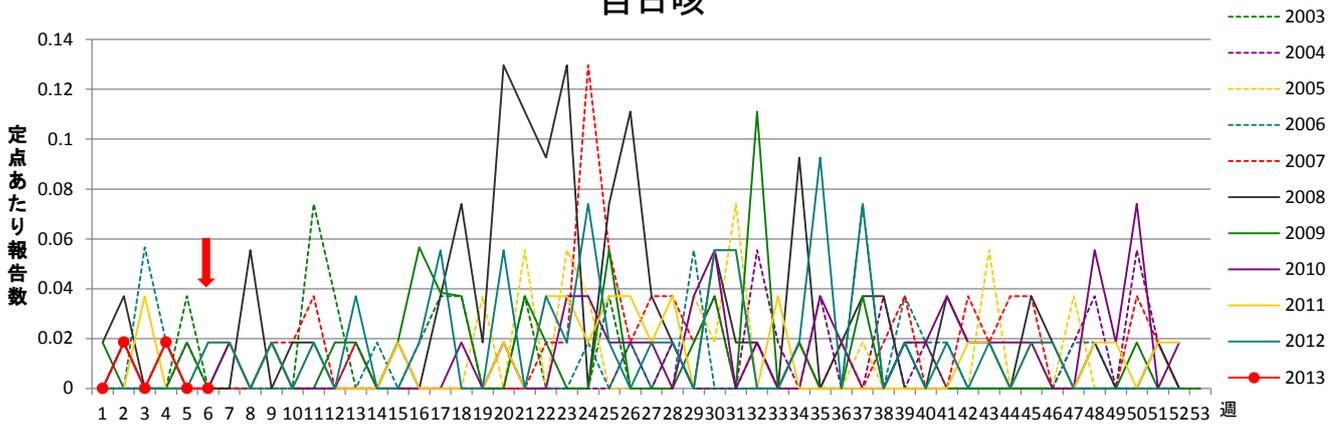
伝染性紅斑



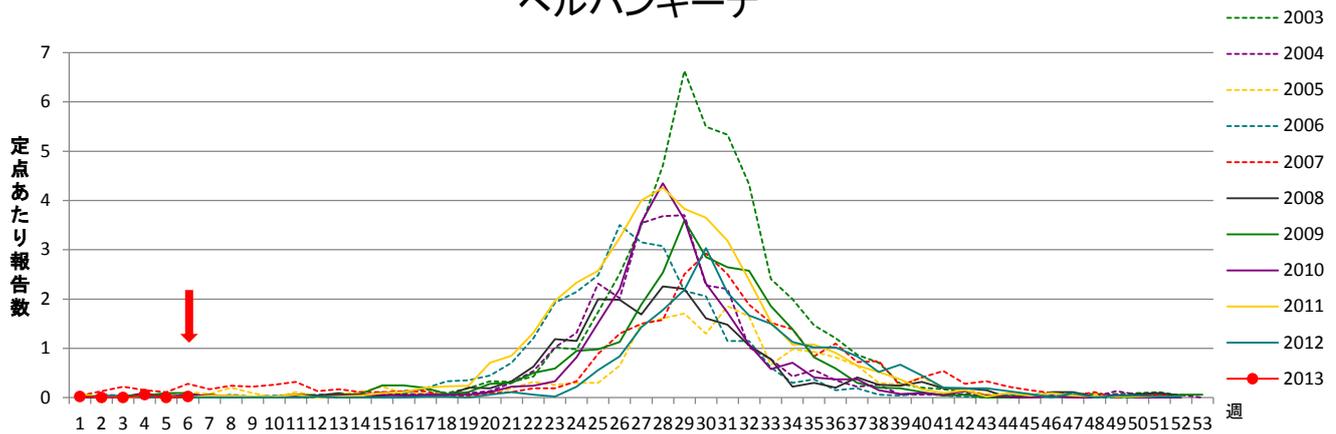
突発性発疹



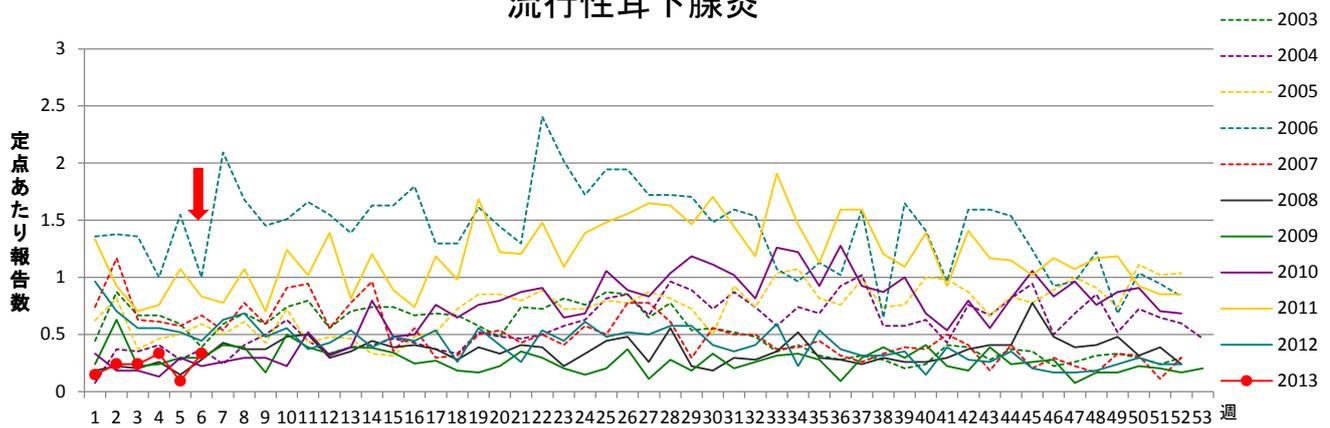
百日咳



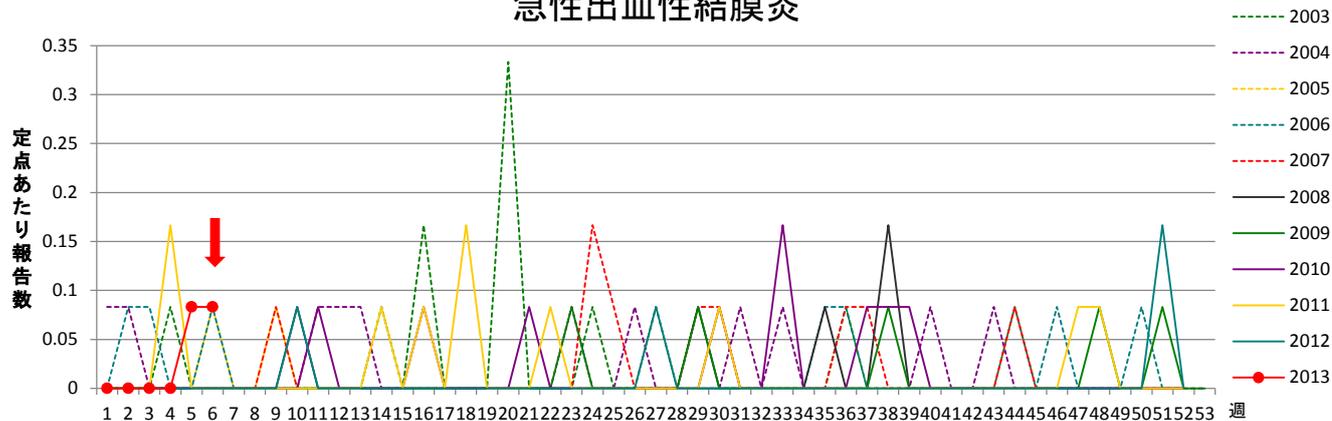
ヘルパンギーナ



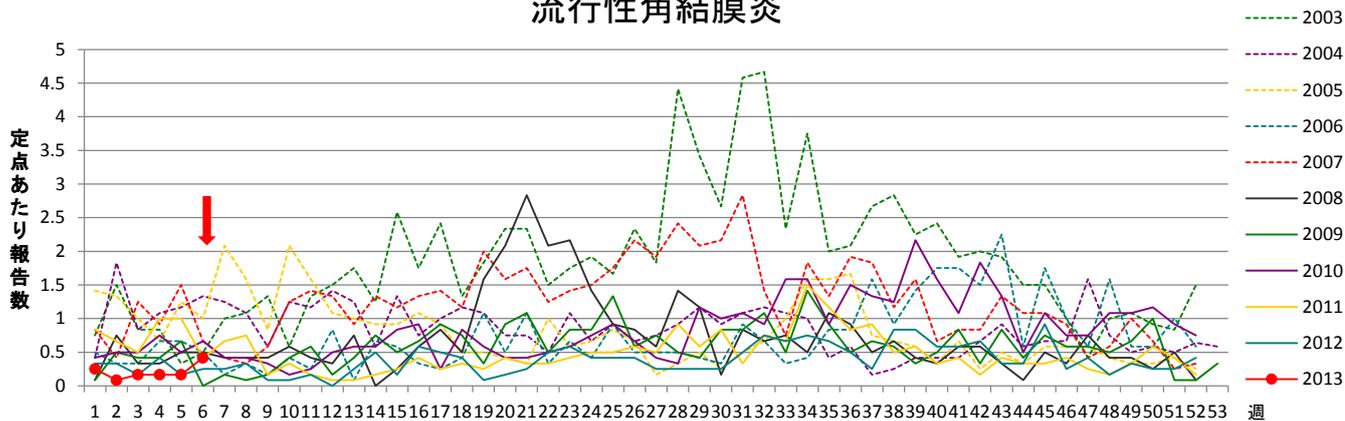
流行性耳下腺炎



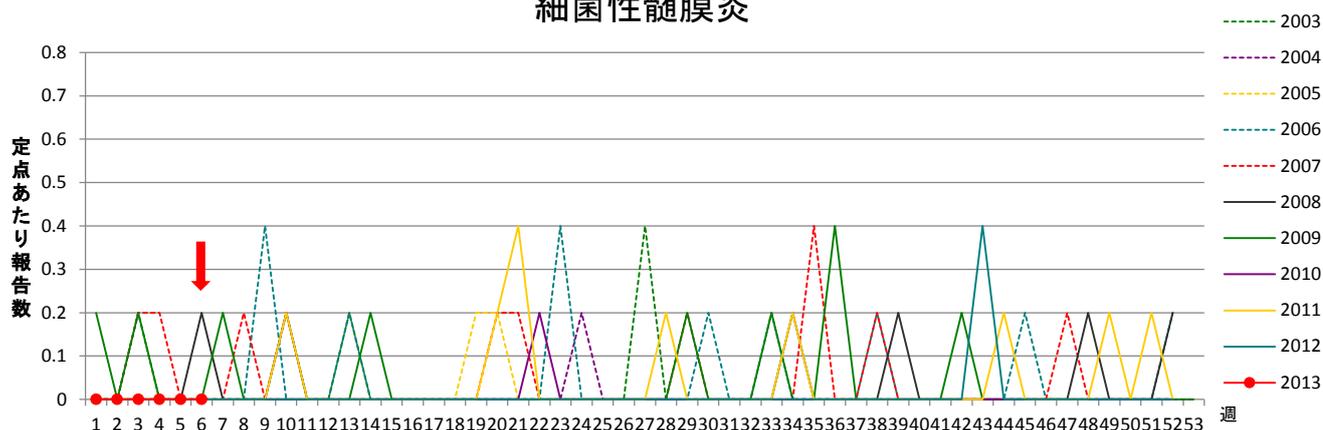
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

